

『心臓にがんはできますか？』



がん（悪性腫瘍）は基本的にすべての臓器、組織にできます。心臓も例外ではありません。あまり聞くことはありませんが、男性にも乳がんがありますし、血管や目にもがんができます。

がんは大きく3つに分類することができます。

- ①造血器でできるもの：白血病、悪性リンパ腫など
- ②上皮細胞でできるもの：「癌腫（cancer）」という。肺がん、胃がん、大腸がん、乳がん、子宮がんなど
- ③非上皮性細胞でできるもの：「肉腫（sarcome）」という。骨肉腫など

心臓には上皮細胞がないため、できるのは③のタイプです。

では、体中の臓器・組織にがんができるのに、がん検診は肺・胃・大腸・乳房・子宮などだけでよいのでしょうか。がん検診を受ける側としては、1回の検診で体中のがんの有無がわかればよいのと思いますが、医療はそこまで進んでいません。しかも、国民の税金を使うがん検診の場合は、実施に至るまでに高い高いハードルがありません。一般には次のようなことです。

- ・多くの人が亡くなる原因になっているがんであること
- ・無症状のがんを見つける検査の方法があること
- ・その検査は、安全で安価で多くの人に実施できること
- ・その検査は、見逃しも過剰診断もできるだけ少ないこと
- ・検査で見つけたがんを治療する方法があること
- ・つまり検診によりそのがんで亡くなる人の数を減らせること

がんは肉腫より癌腫のほうが圧倒的に多く発生し、肉腫である心臓の悪性腫瘍は大変稀ながんの1つです。今あるがん検診は、多くの人がかかるがんを見つける検診であり、前述のハードルをクリアしてきた検査です。

「がんが心配」なら、まずはベーシックはがん検診から。